

東区

明善ミュージアム&街道文化プロジェクトについて

課題

東区は旧東海道、姫街道さらに秋葉道など街道文化の拠点として、往古より人、モノ、情報が往来した。また、金原明善翁の出生地であり、同生家は翁の遺徳を学ぶ施設として貴重である。社会生活が不安視される中、「報徳精神」の継承者として学ぶべきことは多い（翁の絵話を刊行済み）。

東区は、明善翁のほかTVの発明者・高柳健次郎、俳諧の聖人・松島十湖、国内はもとより海外にまでその作品が残る建築家・中村与資平など郷土の偉人を排出している。

また、蒲神明宮は伊勢神宮とも密接な関係があり、20年に一度の遷宮をおこなうなど歴史的価値が高い。また、この地は源頼朝の弟・範頼が居住した地でもある。

こうした歴史遺産をもちながら、これまで交流人口の拡大という面で必ずしも積極的でなかったということは否めない。

そうした折、明善生家及び記念館が金原治山治水財団によりリニューアルされる運びである。この機会に、市民協働により「明善ミュージアム&街道文化プロジェクト（仮称）」を立ち上げ、東区を「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりに資するものとする。

平成22年度の方針

《ハード事業》

金原明善ミュージアム整備事業（*民間施行）

現在の生家をリニューアルし、ミュージアム機能をもたせ、観光施設として充実させる。なお、記念館は取り壊し、駐車場とする。これにかかる概算経費は7,000~8,000万円。

「立場茶屋」整備事業（*民間施行）

かつての東海道を旅した人たちの憩いの場のひとつが立場茶屋である。これを再現し、現在の東海道ウォーカー（今後ますます増えるものと思われる）にもてなしを提供する。

《ソフト事業》

東海道真ん中案内看板事業（*東区施行）

東区では「東区街道案内看板整備計画」を策定しており（平成20年度）、これにより平成21年度予算にて数基設置する。

街道景観、修景整備事業（*東区、民間施行）

街道文化を再現するため道路舗装整備や行灯、大店などで用いられた日除けなどを官民協力し演出する。

プロジェクト推進体制の確立（*東区、民間施行）

これらの実施主体として、明善ミュージアム&街道文化プロジェクト（仮称）実行委員会を早期に発足させる。まちづくり協議会としての機能をもつものであり、これ以外にこのプロジェクトに賛同するサポーターを取り込む。

広域集客連携（*東区、民間施行）

街道文化は袋井宿、新居宿（関所）、気賀宿（関所）でも展開しているところであり、これらと連携することによって相乗効果が期待できる。共通の通行手形を作成し、スタンブラリー感覚で踏破することも関心をひくことであろう。